

沖縄の市民社会の団体／グループ  
沖縄県宜野湾市志真志 4-24-7  
宜野湾セミナーハウス 304

2015年3月3日

ジョン・ウィスラー中将  
第三海兵遠征軍司令官  
在日米軍沖縄地域調整官  
キャンプ・コートニー、キャンプ・瑞慶覧  
沖縄、日本

ウィスラー中将

私たち沖縄の市民社会の団体／グループは、ウィスラー中将と米軍に対してこの書簡をもって、2015年2月22日の米軍による日本の民間人二名の逮捕と拘束を非難するとともに、十分な説明と正義を要求する。

目撃者の証言とメディア報道によると、沖縄平和運動センターの議長である山城博治氏と宮古島の谷本大岳氏は、当日午前9時ごろ、他40名の人々と共に、米海兵隊キャンプ・シュワブのメインゲート前にいた。彼らは日本国憲法の21条や市民的及び政治的権利に関する国際規約の19条で保証されている、集会、結社、言論、その他の表現の自由の権利を行使し、沖縄県名護市の辺野古・大浦湾における米軍基地の建設に対して抗議をしていた。キャンプ・シュワブ前での抗議活動は、2014年7月に始まって以来、その日で231日目を迎え、その日の午後には、オール沖縄によるキャンプ・シュワブ前での抗議集会も開催が予定されていた。

抗議をする人々は熱気が高まるにつれ、基地と沖縄県の公共場の境界を示すために新たに引かれた「黄色のライン」に向かって動き始めた。そこで山城氏は抗議をする人々に冷静になるよう呼びかけ、また境界線を越えないように指示をした。そして警備をしていた沖縄県警が見守るなか、人々は境界線から下がり始めた。

すると突然、米軍の指揮下にある警備隊員数名が基地側から突進し、山城氏を背後から地面に押し倒し、彼の足をつかみ黄色いラインの米軍側に引きずり込んだ。この警備隊員の行動は、山城氏が黄色いラインを越えるなど促している際にとられたものである。山城氏は抗議をする人々の方に向いており、黄色いラインには背を向け、警備隊員の動きを見ることができなかった。

黄色いラインの米軍側で警備隊員は、山城氏を米軍警察に引き渡し、そして米軍警察は山城氏を後ろ手で手錠にかけて逮捕した。

谷本氏は、山城氏を救い出そうとしたが、彼もまた、同じように引きずられ、後ろ手に手錠をかけられ、逮捕された。

その後、山城氏と谷本氏は尋問のために、キャンプ・シュワブの中にある建物に連行された。米軍警察は彼らに対して、通訳者を通して、日米地位協定へ違反により逮捕されたと伝えたとされる。彼らは別々の部屋でその後3時間拘束された。尋問の間、山城氏と谷本氏は黙秘権を行使した。

当日その後、山城氏と谷本氏はキャンプ・シュワブより名護警察署に送致された。彼らはそこで沖縄県警により逮捕、勾留されている。沖縄タイムス紙（2015年2月24日）において引用されている名護署警察官の発言によると、軍より両氏の身柄が引き渡されると日米地位協定の「(県警は)手続き上逮捕せざるを得ない」という。

翌日2月23日、山城氏と谷本氏は那覇地検に尋問のため送致された。那覇地検は、理由は「明らかにできない」としながら、勾留を請求しないことを決めた（2015年2月23日 共同通信）。

一方その間米軍は、山城氏と谷本氏の逮捕と拘束について、沖縄の社会に一切の公的説明を行っていない。しかし、沖縄タイムス（2015年25日）によると、キャンプ・シュワブのディレクターのジョセフ・キング氏は、来沖していた参議院の沖縄北方特別委員団に対しては、「上からの指示」で逮捕、拘束したと説明している。

私たちは米軍による山城氏と谷本氏の逮捕と拘束は、不要であり不当であり、日本国憲法と市民的及び政治的権利に関する国際規約で保証された山城氏と谷本氏の表現の自由を侵害していると考えます。

私たちは、山城氏と谷本氏を逮捕そして拘束することにより、日米間の協定に規定されている米軍の権限を米軍は逸脱したと考えます。私たちは、米軍による日本人二人の逮捕と拘束は、辺野古・大浦湾における基地建設に反対する沖縄の民意と抵抗運動への、意図的脅威であり、威嚇の企てだと考えます。

私たちは、逮捕の場所から数メートルしか離れていない場所で数時間後に開催されるオール沖縄の抗議集会の議長であった山城氏が逮捕されたことが、単なる偶然であったと考えすることはできない。

私たちは、米軍による山城氏と谷本氏の逮捕と拘束をここに非難する。

私たちは、米軍に対して、山城氏と谷本氏の逮捕と拘束において、指揮系統のなかでなぜそしてどのような判断がなされ、行為が行われたのかについて十分な説明を行うことを要求する。

私たちは、米軍に対して、山城氏と谷本氏が被った米軍による不当行為と侵害を正すための必要な判断と必要な行動をとることを要求する。

私たちは、米軍に対して、沖縄の民意が辺野古・大浦湾における米軍基地建設に反対であることを理解し、尊重することを要求する。

私たちは、米軍に対して、日本国憲法と市民的及び政治的権利に関する国際規約で保証されている、私たちの集会、結社、言論、その他の表現の自由の権利を理解し、尊重することを要求する。

敬具

沖縄平和市民連絡会  
へり基地反対協議会  
沖縄平和運動センター  
へり基地いらぬ二見以北十区の会  
ティダの会  
命どう宝を継承する会  
憲法9条-世界へ未来へ沖縄連絡会  
うるま市具志川九条の会  
基地・軍隊を許さない行動する女たちの会  
南風原平和ガイドの会  
沖縄戦を知るピースウォーク委員会  
ハーフセンチュリー宮森  
命を守るナイチンゲールの会  
沖縄恨の碑の会  
米軍基地に反対する運動としての沖縄と韓国の民衆連帯をめざす会  
New Wave to Hope  
へりパッドいらぬ高江住民の会  
奥間川流域基金

琉球諸島を世界遺産にする連絡会  
沖縄環境ネットワーク  
ジュゴン保護基金  
ジュゴンネットワーク沖縄  
北限のジュゴンを見守る会  
ジュゴン保護キャンペーンセンター  
民宿ヤポネシア  
泡瀬干潟を守る連絡会  
ウェットランドフォーラム  
平和・人権・環境を守る岐阜県市民の声  
沖縄・生物多様性市民ネットワーク

連絡：吉川秀樹  
沖縄・生物多様性市民ネットワーク共同代表  
yhidekiy@gmail.com  
090-2516-7969

CC: 米国大統領 バラック・オバマ  
米国防総省長官 アッシュ・カーター  
米国太平洋軍司令官 サミュエル・J・ロックリア3世海軍大将  
在日米軍司令官 サルヴァトーレ・“サム”・アンジェレラ中将  
駐日米国大使 キャロライン・ブーヴィエ・ケネディー

沖縄県知事 翁長雄志  
沖縄県議会議長 喜名昌春  
名護市長 稲嶺進  
名護市議会議長 屋比久 稔

国連事務総長 パン・ギムン  
国連人権理事会議長 ヨアヒム・リュッカー

内閣総理大臣 安倍晋三  
防衛大臣 中谷元  
外務大臣 岸田文雄  
沖縄及び北方対策大臣 山口俊一

国内外メディア等